

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.138

2019. February

はばたき

特集1

本庶佑法人顧問

ノーベル生理学・医学賞受賞

特集2

未然に防ぐ災害

キャンパスピックス

文部科学省

「大学の世界展開力強化事業」に採択

CONTENTS

- p01 本庶佑法人顧問ノーベル生理学・医学賞受賞
- p05 未然に防ぐ災害
- p07 **CAMPUS TOPICS**
 - ・ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択
 - ・ 剣祭・橘花祭2018開催レポート
 - ・ キューバでの自然医療国際会議に出席
 - ・ 「静岡市大学生訪韓研修」に国際関係学部の3学生が選抜・訪問記
 - ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018静岡を開催
 - ・ 西伊豆町でのフィールドワーク
 - ・ イタリア・ポローニャ大学フォルリ校との連携活動
 - ・ 第6回全国公立大学学生大会「LINKtopos」を開催
 - ・ ティーカフェを開催
 - ・ 比較文明学会第36回大会の開催
 - ・ 広域ヨーロッパ研究センター連続講演会「ヨーロッパの歴史認識を考える」
 - ・ 「THE 世界大学ランキング2019」で本学がランクイン
 - ・ ホスピタル・ブレイ・スペシャリスト養成講座第14クールの開講とスヌーズレンの開催
 - ・ 「第4回薬食国際カンファレンス」を開催
 - ・ 「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」へ参加
 - ・ 経営情報学部岩崎ゼミ生によるコンサルティング事業に対し感謝状
 - ・ 静岡県議会本会議の傍聴と県議会議員との意見交換会
 - ・ 中国社会保障制度研究成果報告会の開催
- p14 **キャリア支援センターだより**
- p15 **研究室訪問**
 - ・ 薬学部 薬物動態学分野 尾上誠良教授
- p17 **活躍する卒業生**
 - ・ 国際関係学部 / 国際関係学研究科
- p18 **産学民官連携**
- p19 **はばたき寄金からのお知らせ**
- p20 **図書館だより**
 - ・ 岡村昭彦文庫10周年・岡村昭彦資料室開設記念講演会/私の一冊の本
- p21 **奨学金授与式**
- p22 **Information**
 - ・ 教員・学生の受賞
 - ・ 学長表彰
 - ・ 教員人事
 - ・ おおぞら基金寄附者ご芳名



経営情報学部棟前にて

祝・本庶佑法 ノーベル生



第3代理事長(在任2012年4月～2017年4月)で、現在、静岡県公立大学法人顧問を務める本庶佑先生が2018年12月10日にスウェーデンのストックホルムで開催されたノーベル賞受賞式に出席され、生理学・医学賞のメダルと賞状を授与されました。

本号では本庶顧問の功績を称え、理事長在任中の軌跡のほか、座右の銘や学内からの祝福メッセージなどを紹介します。

人顧問 生理学・医学賞受賞



The Nobel Prize Award
Ceremony 2018.
Nobel Prize.org.
©Nobel Media AB 2018.

受賞した研究内容

受賞理由は「免疫抑制の阻害によるがん治療法の発見」です。

体内にがん細胞が生まれると、通常免疫細胞が異物とみなして攻撃し、死滅させようとします。本庶顧問は1992年、免疫細胞の一種である「T細胞」の表面に存在する新たなタンパク質を発見し、「PD-1」と命名しました。その後、「PD-1」が、がん細胞表面に存在する別のタンパク質「PD-L1」と結びつくと、免疫細胞の働きにブレーキがかかることを解明し、このがん細胞によるブレーキを解除することで免疫細胞の攻撃力が回復し、がんを治療できることを明らかにしました。このメカニズムに基づいて作られた薬は、末期がんの患者でもがんの進行をほぼ抑えて生存期間を延長できることが示され、世界中に衝撃を与えました。薬は「オプジーボ（一般名:ニボルマブ）」と名づけられて2014年、世界に先駆けて日本で皮膚がんの悪性黒色腫（メラノーマ）の治療薬として承認されました。肺がんや胃がんなど幅広いがん種で効果が確認され、現在は60カ国以上で承認されています。



本庶 佑(ほんじょ たすく)法人顧問略歴

1942年(昭和17年)京都市生まれ
京都大学大学院医学研究科修了。医学博士(京都大学1975年)。
現在、本学法人顧問他、京都大学名誉教授、
京都大学高等研究院副院長・特別教授、
ふじのくに地域医療支援センター理事長などを務める。

～祝福メッセージ～



学長 鬼頭 宏

本学の本庶佑顧問が、がん免疫療法の開発で2018年ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。朝日賞、日本学士院賞、唐奨、京都賞など数々の学術賞を受賞され、文化勲章の受章に加えて、栄えあるノーベル賞を授けられた事に対して心からお祝い申し上げます。

本庶顧問は2012年4月から2017年4月まで本学に理事長としてお務めいただきましたが、私は2年間、先生の下で大学の運営に携わる機会を得ました。その間、古武士の風格そのままに些細なこともゆるがせにしない厳しさ、それでいてゴルフに熱中し居酒屋を楽しむゆとり、歴史から国際政治にも広がる旺盛な知識欲など、あたかも広大で豊かな裾野をもつ富士の高嶺を仰ぎ見るような気持ちで接してまいりました。受賞後のインタビューで語られた、不思議だなという心を大切に、教科書に書いてあることを頭から信じない、常に疑いをもって自分の目で見て納得する、という言葉が印象的でした。

本庶顧問のノーベル賞受賞は、地域の健康を支える人材育成を担う本学にとって大変名誉なことであり、教職員、学生には大きな励みになるでしょう。顧問のますますのご健康とご活躍を祈念申し上げます。



第32回京都賞の受賞式にて
(2016年11月 京都市内)



薬学部長 賀川 義之

本庶佑顧問のノーベル生理学・医学賞受賞を心よりお喜び申し上げます。私の知る限り、ノーベル賞受賞がサプライズではなく、受賞は当然と受け止められる日本人受賞者は本庶顧問が初めてです。本庶顧問には5年余りにわたり法人理事長として、本学の教育・研究をご指導いただき、法人運営にもご尽力いただきましたことを厚く御礼申し上げます。平成28年度の薬学部創立100周年記念事業においても、本庶顧問には特別記念講演を快くお引き受けいただき、PD-1の発見からニボルマブの開発に至る苦難を乗り越えられたエピソードをお話しいただきました。本庶顧問のご講演で薬学部100周年を盛大に祝うことができたことを大変光栄に思います。また、100周年記念誌への本庶顧問の寄稿を通して、専門研究領域だけでなく、関連領域も含めて生命科学全体を俯瞰できる幅広い知識を醸成することの重要性をご教示いただきました。

本庶顧問のご健康と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

本庶顧問のご健康と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

理事長在任中の軌跡

- 2012年4月 理事長就任
- 2012年4月 開学記念行事にて講話「いのちとは何か」
- 2012年7月 大学院薬食生命科学総合学府
特別講義で講演 写真
- 2013年1月 大村智氏(2015年ノーベル生理学・医学賞受賞)
特別講義にて挨拶
- 2013年1月 「ゲノムが語る生命像 現代人のための最新・
生命科学入門」講談社より出版
- 2013年9月 小鹿キャンパス
看護学部棟着工開始 写真
- 2013年11月 文化勲章を受章
- 2014年2月 静岡市内で文化勲章受章祝賀会
写真
- 2015年3月 小鹿キャンパス看護学部棟
オープン記念式典 写真
- 2016年7月 静薬創立100周年記念講演
写真
- 2016年10月 創立30周年記念式典にて挨拶
- 2017年4月 理事長退任 写真
- 2017年5月 顧問就任



写真 「免疫の多様化機構ゲノム不安定化; 発癌 癌の免疫治療」というタイトルで講演



写真 小鹿キャンパス看護学部棟着工における鎮めの儀



写真 文化勲章受章祝賀会での挨拶



写真 小鹿キャンパス看護学部棟前でのテープカット



写真 「PD-1抗体によるがん治療」というタイトルで記念講演



写真 最終日にはばたき棟前にて



座右の銘

「有志竟成(ゆうしきょうせい)」

意味

強い志を持っていれば、目的は必ず成し遂げられる

2018年11月 本庶顧問から本学へ寄贈されました。
本色紙はノーベル博物館に寄贈された色紙のレプリカです。

未然に防く災害

昨年も日本列島は西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの大きな災害に見舞われました。静岡でも台風24号による被害が各地で相次ぎ、本学においても停電が半日以上続き、情報伝達や機器の稼働などに課題を生じる結果となりました。災害を未然に防ぐことの大切さや災害が発生した際にすべきことなどを改めて考えさせられる機会となりました。

本号では本学での防災や災害発生時における取組みを紹介します。



写真:本学にて行われた草薙カイギ ~ HUG(避難所運営ゲーム)~の様子

防災を一步進める地震予知研究

グローバル地域センターの「地震予知部門」は、文字通り、地震予知を目指す幅広い分野の研究をしています。被害をより軽減するには、地震後の対応だけではなく、地震が起きる前の現象の科学的知見を十分に活用した事前対応が必要です。そのためには、地震に先行する現象は何か、また、それは防災に役立つかを明らかにする研究が必要で、それが地震予知研究です。

例えば、割り箸の両端を持ち折ろうと力を加えると、“ミシミシ”と音になって最終的に折れますが、先行現象の“ミシミシ”をキャッチしようというのが地震予知のアイデアです。ただし、前触れもなく破壊する場合も多々あるのが、地震と割り箸が違うところです。地震予知ができる場合もあれば、できない場合もあるというのが研究の前提です。

東日本大震災を引き起こした2011年東北地方太平洋沖地震（以下、東北沖地震）の前に何が起きたかを調べると、様々な先行現象が発現していたことが分かっています。例えば、東北沖でゆっくりとした地殻変

動があり、また、東北沖地震の2日前に前震と考えられる比較的大きな地震が起きました。その他、中小規模の地震の活動が低調になったり、地球潮汐と中規模地震の活動が同期する様になったりしました。これらは東北沖地震の後に振り返って観測データを見直した結果です。東日本大震災からの教訓は、この様に多種目を観測する体制を事前に準備していれば、巨大地震が起きやすくなっていることを示すことができ、何らかの防災に役立つ可能性があるというものです。

南海トラフ地震による災害は、静岡県に住む我々の身に降りかかってきます。我々でなんとかしたいという思いで、本部門は南海トラフ地震の先行現象を監視する技術開発を進めています。これまでの研究から、微小地震の起こり方を監視していると、南海トラフ沿いの力のかかり具合を推定出来ることが分かってきました。しかし、これは一手法です。複数監視をする体制を整えるには、我々だけでは南海トラフ地震の発生に間に合いませんので、気象庁をは

じめとする日本の研究機関、そして世界の研究機関とも連携して研究中です。

地震は突発的に発生すると考え、防災対応をすることは大前提です。しかし、その対応をしてもなお残る被害の甚大さを考慮すると、地震予知研究は静岡県に必要です。本学学生の皆さんと一緒に地震や防災を学びながら研究をしていきたいと思ひます。



楠城一嘉特任准教授

楠城一嘉特任准教授:グローバル地域センター地震予知部門総括。東日本大震災・阪神淡路大震災を踏まえて、将来避けられない南海トラフ地震や富士山噴火から静岡県民を守るための教育・研究活動を実施している。

消防訓練、電力・通信途絶を想定した情報発信訓練の実施

11月1日に本学教職員らによる消防訓練を実施しました。放水作業や担架を使用しての救助作業、非常用発電装置の起動操作を行いました。本学では、発災直後の教職員の行動が学生・教職員の安全に大きく影響することを肝に銘じ、災害時に迅速で的確な対応ができるよう、防火・防災意識を高めています。

また、11月22日には電力・通信途絶を想定した情報発信訓練を実施しました。台風や地震などの災害時に学内の非常

発電装置が使えず、地上の公衆回線網も途絶してしまったような劣悪状況を想定し、太陽光発電や蓄電池、防災用LPガス発電機などを使って電源を確保した上で、衛星インターネットを使って学外にあるWebサーバにアクセスし、発信情報の更新操作などを行いました。

実際の災害時に落ち着いて対応できるよう、訓練を重ねていくことの大切さを実感しました。



消防訓練で放水作業を行う教職員



情報発信訓練で防災用LPガス発電機の操作を行う教職員

本学学生の活動

有志学生らによる被災地への募金活動

本学の有志学生らが7月22日から8月12日までの間、JR静岡駅地下通路に週4回ほど交代で立ち、大阪北部地震と西日本豪雨の被災者に対する募金活動を実施しました。街頭での募金活動は計15回におよび、約34万円の募金を集めることができました。

このうち約10万円を大阪北部地震に関する支援金にあてることとし、草薙キャンパスで募金活動の報告会を開き、大阪府立大学ボランティア・市民活動センターの

松居勇氏の紹介を受け、「おおさか災害支援ネットワーク」(事務局:社会福祉法人大阪ボランティア協会)に寄附しました。

募金総額のうち残りの約24万円は、西日本豪雨の被災者への義援金として、西日本の地域災害支援団体に寄附しました。

なお、有志学生は「ボランティアをしたいと思っている人」と「ボランティアを必要としている人・団体」をつなぐ場所として、本学でボランティアセンターの設立を目指しています。



松居氏へ募金を渡す学生



剣祭での募金活動

本学学生の活動

防災ボランティアクラブ防 z

防 z では、学外の活動として定期的にAEDの使用法や包帯法をはじめとした救命処置の講習会を、静岡市消防団清水第13分団管轄地域などで行い、救命技術の普及に努めています。この講習会では毎回多くの参加者から高い評価を頂いています。

学内の活動としては主に、オープンキャンパスでの救命救急実演の他に、今年で2回目となる「防災スクールIN県大」を開催しました。今年は地域住民だけで

なく、防災に関わる県内の大学生にも参加いただき、当日は講演やHUG(避難所運営ゲーム)、非常食の試食会などを実施しました。参加者にとって、防災についての理解を深めていただく機会となったのではないかと考えます。また、今年度は大学COC事業(地域課題解決に資する人材育成の取組み)との連携を強化し、初の試みとなる「非常食deランチ」を共催し、非常食についての現状を参加者と共有しました。



オープンキャンパスで心臓マッサージを指導する学生



防災スクールにて

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択

上智大学、お茶の水女子大学と本学が合同で申請した事業「人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発」が、文部科学省「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」に採択されました。（事業期間2018～2022年度）

本事業では、オンライン教育（Collaborative Online International Learning：COIL）を利用した遠隔教育と交流事業を軸に、日米2国間の大学間連携を図ります。日本側3大学および米国側10大学が参加し、(1)学生へのグローバル教育機会の提供、(2)連携大学と地域社会のリソースを活用した多層的な学生交流の推進、(3)国際協働オンライン学習プログラ



お茶の水女子大学
Ochanomizu University



各大学のロゴマーク・校章（左から上智大学、お茶の水女子大学、本学）

ラムの第三国への展開を通じた途上国での教育格差是正への貢献、の3つを目標に掲げ、2018年9月より活動を展開しています。

本事業の最大の特徴は、国内3大学の強みを組み合わせた、国内循環型のマルチキャンパスでの留学生受入プログラムの実施です。東京の2大学で講義を受けた留学生が、本学を通じて静岡県内の企業・団体でのインターンシップに参加し、地域での国際交流と新たな形の産学連携を促進

します。

また、授業科目へのCOIL導入を促進し、米国大学とつなぐことで、経済的理由や大学の履修カリキュラムの関係上、留学機会が得にくい学生に、米国の学生と共に学ぶ場を創出します。

本事業を通じ、人間の安全保障と多文化共生の観点から国際社会における課題を発見し、その解決に貢献できる人材の育成を目指していきます。

剣祭・橘花祭2018開催レポート

剣祭

10月27日、28日の2日に渡り、草薙キャンパスでは第32回剣祭を開催しました。今年のテーマ「祭魂～平成最後の宴～」には、平成最後を飾るにふさわしい剣祭を皆さんと作り上げたという熱い思いが込められています。今年は、ミス&ミスターコンテスト

が常葉大学と合同で開催され、多くの来場者を集めました。毎年人気のお化け屋敷やクラブ・サークルによるイベントのほか、平成を振り返る企画などでも盛り上がりました。また、模擬授業や研究室開放も行われ、本学を身近に感じていただける絶好の機会となりました。

橘花祭

11月3日、4日、短期大学の第22回橘花祭を小鹿キャンパスにて開催しました。各サークルによる発表や学科ごとの模擬体験の他に、お笑いライブも行われました。アットホームな

雰囲気の中で、来場者にも親しみやすい企画が用意されており、幼児から大人までたくさんの方々の笑顔がみられました。ぜひ、来年度も足を運んでみてください。



橘花祭模擬店の様子



剣祭のオープニングセレモニー

キューバでの自然医療(Natural Medicine)国際会議に出席



写真左から、伊藤壽記団長(日本統合医療学会理事長)、渡邊優特命全権大使と山田特任教授(日本大使館公邸前にて)

9月1日から10日間、日本統合医療学会使節団としてキューバ(ハバナ市)で開催された「第6回キューバ生体エネルギー・自然医療学会国際会議」・「第2回日本・キューバ統合医療シンポジウム」に薬食研究推進センター山

田静雄特任教授が出席しました。同会議は、自然医療・伝統医療をテーマに4年毎に開催され、中南米から約500名が参加しました。同時開催された日本統合医療学会とキューバ自然医療学会との合同シンポジウムでは、日本の伝統医療(鍼灸、温熱、アロマ、薬草)が講演と実演により紹介されました。山田特任教授は、緑茶の健康効果と飲料・食品を紹介し、試食を行った実際の製品は大変好評を得ました。学会後にはハリバピレーション医療施設などを視察しました。

外務省の紹介で、在キューバ日本国大使館を訪れ、渡邊優特命全権大使からキューバの歴史や医療事情などを伺い、昼食をとりながら情報交換を行いました。キューバでは、予防医療・自然医療・健康増進政策を基

盤として、世界で最も整備されているプライマリーケアの1次医療から、大学病院などの高度先進医療の3次医療まで統合医療化された医療制度の下、洗練された医療体系が構築されていました。教育費と医療費はすべて無償、医学部では予防医学、公衆衛生学や災害医療学を教え、ハリケーンによる被害も他国に比べはるかに小さいなど、実りの多い情報交換となりました。



第6回キューバ生体エネルギー・自然医療学会国際会議の開会式

「静岡市大学生訪韓研修」に国際関係学部の3学生が選抜～訪問記～

平成30年度静岡市大学生訪韓研修(静岡市国際交流協会など主催)に、本学国際関係学部生3名が選抜されました。山本彩加さん(4年)、須部広明さん(3年)、鈴木菜那さん(2年)の3名で、静岡大学など他大学生7名と共に、9月6日～13日に韓国京畿道水原市を訪れました。

外務省の対日理解促進交流プログラム「JENESYS 韓国との間の招へい事業」によって、同協会が実施してきたもので、本学学生の参加は今回で5回目です。

その印象記を、鈴木さんに寄せてもらいました。

私たちは受け入れ先の水原市国際交流センターの配慮で、世界文化遺産「水原華城」の見学、一般家庭でのホームステイ、地元の大学生・青年との交流などを体験しました。

京畿大学日本語学科の学生らとは、「日韓の就職と進路の違い」について討論する機会がありました。韓国の

大学生は新卒採用の就職難に直面しているにもかかわらず、ほとんどが大企業志向で、競争意識が高いことに驚きました。水原市は行政サイドの学生支援策として、リクルートスーツの無償貸し出し等を実施しているそうです。韓国のリアルな社会状況を直接見聞き、このディスカッションへの参加だけでも刺激的な研修でした。

歴史や外交をめぐる日韓間の葛藤から、研修前は訪韓に不安もありました。しかし、そのような雰囲気を感じ

ることは現地で微塵も無く、言葉の壁も越えてコミュニケーションできました。交流は韓国大学生らの日本理解にも役立ったはずです。

ホームステイなどで韓国人の日常生活やその温かさに触れたことを含め、上辺だけではなく、複眼的に外国を見る視点が養われたような気がします。このような交流の機会が増えることが、両国の若者にとって重要だと実感しました。



京畿大学生らとの交流の場で

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018静岡を開催

9月8日、9日の2日間に渡り、がん患者・家族支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018静岡」が本学との共催のもとに行われました。今年で6回目となる大会には、28チーム（県大関係2チーム）が参加し、本学学生、教職員、サバイバー（がん患者）の総勢1100名が集いました。

開会式は大講堂にて行われ、スクリーンには、本大会発祥の地であるアメリカのリレー・フォー・ライフの映像が大きく映し出され、参加者全員がその原点を再認識し、大きな感動を覚えました。その後、サバイバーズラップ（サバイバーの皆さんがサバイバーズフラッグという横断幕手に、支援者の皆さんに拍手をもら

いながら1周歩くプログラム)を皮切りに、講堂前広場でのリレーウォークが開始され、総勢28チームがそれぞれの思いを乗せたタスキを繋ぎました。

各チームは、学生ホール内において、趣向を凝らしたゲームや募金活動、サバイバーズサロン等を催しました。夕方には多くの思いが綴られた1500を超えるルミナリエに燈が灯り、会場のモニュメント下には「HOPE」の文字が映し出されました。大講堂ではルミナリエセレモニーが行われ、天国に旅立った仲間を偲ぶと共にがんに負けない社会を築く大切さを心に刻みました。静かになった深夜も、参加者同士が語り合い、リレーをつなぐ人々がゆっくりと歩き続けていました。

翌日の日曜日は快晴に恵まれ、空には虹がかかり、本大会を祝福しているようでした。予定していたパフォーマンスも滞りなく進み、最後の一周は参加者全員で歩き、無事本大会を終了しました。

実行委員長 若林敬二
(食品環境研究センター長)



モニュメント下で灯り続けるルミナリエ

西伊豆町でのフィールドワーク

9月18日から19日にかけて、経営情報学部の上野雄史研究室による西伊豆町でのフィールドワークが、東海財務局静岡事務所と西伊豆町役場の協力の下で実施されました。

まず、東海財務局静岡事務所から同町の人口動態・産業構造を踏まえた財政状況の分析結果の説明がありました。そのことを踏まえた上でフィールドワークでは、ゼミ生が同町の地域おこし協力隊員(3名)へのヒアリングや現地視察等を通じて、西伊豆町が抱える地域課題や地方創生の取り組みについて把握

し、地域活性化のためのアイデアを考察しました。最終日の報告会では、各地域の課題の洗い出しとその問題解決の方向性について、多角的な視点でのディスカッションと発表が行われました。



フィールドワーク前の講義の様子

地域の課題解決には縦の繋がりだけでなく横の繋がりが必要であること、さらに限られた資源をどのように投資していくのかという視点が重要であることを確認したフィールドワークになりました。



フィールドワークのディスカッションの様子

平成30年度 学位記授与式 (卒業式・修了式)

平成30年度の学位記授与式(卒業式・修了式)を次の日程で開催いたします。

開催日 平成31年3月20日(水)

開場 午前9時10分

着席 午前9時40分

開式 午前10時

会場 グランシップ大ホール 海

静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)

保護者席を用意しておりますので、ぜひご列席ください。

問い合わせ先 TEL 054-264-5009(学生室)

平成31年度 入学式

平成31年度の入学式を次の日程で開催いたします。

開催日 平成31年4月9日(火)

開場 午前9時10分

着席 午前9時40分

開式 午前10時

会場 グランシップ大ホール 海

静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)

保護者席を用意しておりますので、ぜひご列席ください。

問い合わせ先 TEL 054-264-5009(学生室)

イタリア・ボローニャ大学フォルリ校との連携活動

海外大学との連携活動の一環として10月1日～4日のイタリア・ボローニャ大学フォルリ校で実施された授業に、経営情報学部の学生4名が参加しました。このプログラムは菅原智教授（関西学院大学商学部）により行われているもので、菅原先生のご厚意で本学の学生が受講することを許可していただいたことにより実現しました。

レゴブロックを用いた会計プログラムでは、基礎的なビジネスや会計の知識や原則を、レゴブロックを使った自

動車製造ゲームを通して学び、経営判断や意思決定の難しさや面白さを学ぶことが主目的に置かれています。

今回の講義で驚かされたのは、日本の学生とイタリアの学生の考え方の違いでした。イタリアの学生は、日本の学生とは異なりコストよりも、どういった車を作りたいのかという自分たちのこだわりを重視していました。イタリアの学生のプレゼン力の高さにも驚かされました。現地では日本の学生もイタリアの学生たちに引っ張られるように

活動していたことが印象的でした。経営情報学部では、今回のような海外に飛び出した刺激的なワークショップを今後も開催していく予定です。



講義終了後の集合写真。学生たちの表情から講義の充実がうかがえる

第6回全国公立大学学生大会「LINKtopos2018」を開催

10月6日～8日にかけて、全国公立大学学生大会「LINKtopos2018」が開催されました。

同大会は、東日本大震災の翌年に本学において、「被災地支援や地域防災に果たす大学と学生の役割」をテーマに行われた、公立大学学長と公立大学学生のディスカッションがきっかけとなって始まりました。6回目となった今回は、全国41大学から180名以上の学生・教職員が参加し、過去最大規模の大会と

なりました。

初日、2日目は焼津青少年の家を会場に、地域活動の報告や地域課題についてのワークショップを行いました。

3日目は、本学に会場を移し、並行開催された「公立大学学長会議」と合流し、全国の公立大学学長とともにポスターセッション及びランチ交流会を行いました。また「学長会議」のプログラムである「学生・学長合同セッション」では、公立大学学生ネットワークからの大会報

告と、本学を含む2大学の参加学生から地域活動の報告が行われ、会場全体で活発な意見交換が行われました。



合同セッションにて発表を行う学生

ティーカフェを開催

茶学総合研究センターでは昨年度から学生の休み期間を除き毎月ティーカフェを学生ホール（上食堂）で開いています。これまで、世界の六大茶種（紅茶、緑茶、ウーロン茶、白茶、黄茶、プーアル茶）をはじめ、クリスマスシーズンにはお茶の新芽が花のように開く工夫茶（花茶）、年の初めには縁起物の大福茶、初夏には県内の各産地の新茶、夏には涼しげな冷茶など、季節に応じた呈茶を行ってきました。来場者は毎回100名以上となりますが、学生のみならず本学公式サイトを見て一般の方やお茶に興味を持つ教職員など様々な方が楽しんでます。初めてみる紅色、青色、緑色、黄色等の多彩なお茶の色。近づくとベルガモット、イチゴ、サクラ等

の香りに、トラディショナルな玄米茶、ほうじ茶の焙煎香、煎茶には若葉の香りが漂い、口に入れるや芳醇なうま味が広がるものあり、苦渋味の強いもの、そこはかとない甘味などに驚くとともに、茶の幅広さ、奥深さの魅力に取りつかれ、常連化している来場者も多くなっています。「このお茶が好き」「これは面白い」との言葉や、「ペットボトルから急須のお茶に変えたよ」、さらには「他イベントでもティーカフェのように皆さんにお茶を提供したら盛り上がったよ」などの声も聞かれるようになってきました。本学だからこそ経験できるお茶の世界。一滴のお茶が心に波紋を拡げ、大学へのアイデンティティを想起することを願うばかりです。



工夫茶（花茶）

比較文明学会第36回大会の開催

比較文明学会第36回大会が10月13日から14日にかけて「文明と観光 - 新たな文明モデルをめざして -」をテーマに、県内外から延べ366人の参加者を集めて、本学で開催されました。川勝平太知事の開会あいさつに続き、実行委員長の鬼頭宏学長が本大会の趣旨説明を行いました。本学と静岡文化芸術大学が2019年4月から観光教育を開始することを背景に、異質な文化をもつ人々との接触を通じて、新しい価値観やライフ・スタイル、新しいコミュニティのあり方を提唱し、

新しい文明の構築を目指すべきではないかとの考えが示されました。これに沿って基調講演と2つの公開シンポジウムが開催されました。

1日目のシンポジウム「文明と観光」は、横山俊夫静岡文化芸術大学学長が、「文明に赴けば名所も日に新た」と題して基調講演を行い、これを受けて4人の研究者の発表とパネルディスカッションが実施されました。本学からは富沢寿勇教授がパネリストとして、富澤かな准教授が司会として登壇しました。

2日目のシンポジウム「地域資源を生かした観光」は本学と東海大学海洋学部、静岡文化芸術大学の発表の後、パネルディスカッションが行われました。本学からは北上真一特任教授がコメンテーターを、奈倉京子准教授が司会を、立田洋司名誉教授と鈴木さやか講師がパネリストとして登壇しました。

本大会は、鬼頭実行委員長のもと県内大学の連携協力により企画から準備、運営が行われ、活発な議論が展開されました。



シンポジウム 「文明と観光」



シンポジウム 「地域資源を生かした観光」

広域ヨーロッパ研究センター連続講演会「ヨーロッパの歴史認識を考える」



アンリ・ルソー教授

10月23日と29日に広域ヨーロッパ研究センター連続講演会が開催されました。23日はフランス国立学術研究センター教授のアンリ・ルソー氏が「テレビドラマ『フランスの村』が描く第二次世界大戦期のフランス」と題して講演しました。第二次世界大戦期のフランスについては、長らく対独協力の実像を伝えることがタブーでしたが、1970年代後半以降徐々に状況が進展し、1990年代には最大の汚点であるナチスのユダ

ヤ人迫害への加担についても大統領が公式謝罪するに至りました。このようなフランスにおける歴史認識の進展の集大成ともいえるのが21世紀になって放映された大河歴史ドラマ「フランスの村」です。今回の講演参加者の大半は事前上映会（日本未公開映像を剣持久木教授の解説付きで実施）に参加していたため理解が深まり、充実した機会となりました。

29日にはドイツのゲオルク・エッカート国際教科書研究所元副所長のファルク・ピングエル氏が「戦争博物館で比較するヨーロッパと東アジア」と題する講演を行いました。ピングエル氏は長年、ドイツとフランスやポーランドの間の歴史和解に尽力された経験を踏まえて、戦争博物館の比較から見える東アジアの課題を鋭く指摘しました。講演後、知識を得るための博物館と追悼するための記

念館は分けるべきか、というピングエル氏の問題提起に対し、静岡平和資料センターでボランティアをしている学生が「それは訪問者の選択に任せるべきなのは」という提案をするなど、充実した議論が展開されました。

いずれの講演会も、日本が現在東アジアの近隣諸国との間に抱える歴史認識問題を考える上での重要なヒントが得られる貴重な機会となりました。



ファルク・ピングエル氏

「THE世界大学ランキング2019」で本学がランクイン

イギリスの世界大学ランキング最大手 Times Higher Education (THE) が調査・発表した「THE世界大学ランキング2019」において、本学は初めてエントリーし、総合ランキングで1001+にランクインしました。

THE世界大学ランキングは、世界

の大学を研究力にウエイトを置いて評価するもので、その指標は「教育(30%)」、「研究(30%)」、「被引用論文(30%)」、「国際性(7.5%)」、「産業界からの収入(2.5%)」の5つです。

ランクインした大学の数は、世界86か国1,258大学で、これは世界に2万数

千ある大学のうち約5%に当たります。日本からは本学を含む103大学がランクインし、本学は103大学中52位となりました。また、公立大学は本学を含め10大学がランクインし、東海4県の大学は本学を含め12大学がランクインしました。

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座第14クールの開講とスヌーズレンの開催

ホスピタル・プレイ・スペシャリストとは、遊び(ホスピタル・プレイ)を用いて小児医療チームの一員として働く、イギリス生まれの専門職です。ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座第14クールは全国から多くの応募があり、その中からスペシャリストを目指す熱い志を持つ10名が、10月24日の開講式を迎え、現在本学短期大学部の講義室で日々勉学に励んでいます。修了式の

ある3月初旬までに、在宅や病院での実習・ワークショップの出展等を経験します。1月にはホスピタル・プレイの本場イギリスから来られる先生の講義と国際シンポジウムもあり、多くの先輩スペシャリストとの交流も楽しみの一つです。

さらに特徴的な体験となるスヌーズレンとは、五感<視覚・嗅覚・聴覚・触覚(味覚は無)>を刺激する環境で障害者と支援者が楽しみや安らぎを共

有する雰囲気の中で自分を感じることを提供する実践です。毎年、静岡南部特別支援学校の皆さんがスヌーズレンの特別な空間を体験するために来られます。初めて体験した生徒は驚き、既に経験している生徒はこの日を満喫していました。来年も静岡南部特別支援学校の皆さんの喜ぶ顔を楽しんでいます。



ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座第14クールの開講式



スヌーズレンの様子

「第4回薬食国際カンファレンス」を開催

11月14日～16日に第4回薬食国際カンファレンスが駿河湾と富士山を一望できる日本平ホテルにて開催されました。15日は第13回日中健康科学シンポジウムが同時開催され、約250名が参加しました。本カンファレンスは、第1回(2012年)に続き、本学の特色である薬と食に関する学術研究成果を発表し国内外の研究者と情報交換することにより、健康長寿に貢献することを目的に開催されてきました。海外9か国と国内から招へいた研究者(34名)、本学教員、大学院生が集い、機能性食品・果実類や天然

由来の生理活性物質の健康増進作用に加え、認知症などの予防や治療効果に関する最新の研究成果などが発表され、活発な討論が展開されました。主に大学院生によるポスター発表では、海外からの37題を含む117題の発表があり、その中から14題が優秀ポスター賞を受賞しました。国内外で類を見ない薬と食に関する国際会議ということで、病気の予防と治療を指向した斬新な発想も提示され、大学院生にとっては国内外の著名な研究者との交流の場として研究意欲を高める好機となりました。

薬と食という社会的に身近な問題だけではなく、その科学的融合という新しい健康科学領域が今後大きく発展していくことを世界に情報発信できました。



食品素材による認知症の予防効果の口述発表

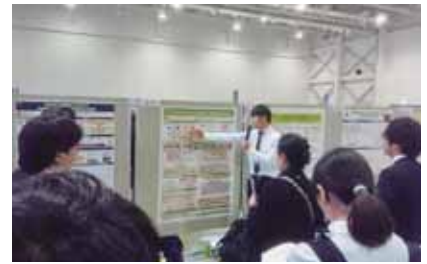
「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」へ参加

11月28日に、富士市のふじさんめっせで、「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2018」が開催されました。

富士山麓アカデミック&サイエンスフェアは、静岡県東部地域を中心とした高等教育機関（大学、短大、高等専門学校）等が一堂に集まり、日頃の研究・開発・ものづくりに関する研究成果等を広く紹介する目的で

2008年から開催されています。

今年度は、食品栄養科学部の坂田昌弘学部長を実行委員長として、本学からも多くの学生が参加したポスター発表や、文部科学省 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）地域づくりワーキンググループによる活動内容の紹介などが行われました。



ポスター発表を行う学生

経営情報学部岩崎ゼミ生によるコンサルティング事業に対し感謝状

経営情報学部岩崎ゼミでは、学生による2種類のコンサルティング事業を行っています。一つは静岡県農業法人協会と連携してマーケティングに課題を抱える農業法人に対し、学生がコンサルティングを実施する「アグリビジネスコンサルティング事業(通称：ABC事業)」であり、もう一つは静岡市と連携して魅力的で個性のある個店を増やすため、学生が個店に対してコンサルティングを実施する「大学生によるお店コンサルティング事業(通称：大コン事業)」です。

両者とも6～7月にキックオフミーティングを行い、約半年間をかけて現地調査や商品開発、広報活動などの提案を行い、ABC事業は12月3日、大

コン事業は12月10日に成果発表会が開催されました。調査に基づいた学生ならではのアイデアが実現する過程が発表され、コンサルティングを受けた農業法人や個店の皆さんからも学生の頑張りを称える感謝の言葉を数多くいただきました。

成果発表会の終わりには、ABC事業は10年目の節目を記念して静岡

県農業法人協会長から感謝状が贈呈され、7年目を迎えた大コン事業では個店の魅力向上に寄与したことに対し静岡市長から感謝状が贈呈されました。

岩崎邦彦教授からは、「学生がこの経験で得るものは多く、今後も継続していきたい」との力強い言葉がありました。



アグリビジネスコンサルティング事業(ABC事業)



大学生によるお店コンサルティング事業(大コン事業)

静岡県議会本会議の傍聴と県議会議員との意見交換会

12月6日、学生7名が静岡県議会本会議を傍聴した後、県議会議員の東堂陽一議員（自民改革会議）と阿部卓也議員（ふじのくに県民クラブ）との意見交換を行いました。

参加した学生は、本会議の傍聴は初めてということで、議員と知事等とのやりとりを真剣な表情で見守りました。

本会議の傍聴が終わると、県議会議員と「静岡県の活性化と若者の地域定着推進に必要なこと」をテーマに意見交換を行いました。学生から寄せられたSNSの積極的利用や地域連携の活性化などの意見に対し、

議員からは政治の堅いイメージを変えるために実施していることや地域連携への取組みなどが紹介され、終始和やかな雰囲気の中で意見交換が進められました。

参加後、「議員の方と意見を交わすことで、身近に感じられた」「政治について興味を持つことができた」とてもよい機会であった」と学生たちは笑顔で感想を語りました。



静岡県議会本会議を傍聴する学生



県議会議員の東堂陽一議員と阿部卓也議員との意見交換

中国社会保障制度研究成果報告会の開催



柯隆特任教授

グローバル地域センターの中国社会保障制度研究会（代表：柯隆特任教授）は、約2年間日中の高齢化問題と社会保障制度の比較研究を実施し、12月19日、グランシップにおいて、その研究成果報告会を開催しました。

中国商務部国際貿易経済合作研究院の俞华氏による中国の社会保障制度の変遷についての講演の後、柯隆特任教授が研究総括として都市と農村の社会保障の格差について問題提起しました。続いて、日中福祉プランニングの王青氏が、中国では介護ビジネス市場が過熱しているが、介護の哲学・文化が日本の強みであると講演されました。

その後、研究会メンバーが報告を行いました。東京経済大学の李蓮花准教授は、現在の中国の状況は日本の80年代と似通っており、公的介護保障制度の構築と介護の質の向上が課題であると指摘しました。経営情報イノベーション研究科の東野定律教授は、中国の高齢者人口の多さから在宅介護サービスの充実と地域住民の協力が鍵になると述べました。短期大学部社会福祉学科の天野ゆかり講師はアジア各国において介護の質の高い専門人材育成制度を検討する一

方、アジア全体での介護人材の交流を提案しました。

当日は県内外から介護事業者、研究者、学生、県民等約220名が熱心に聴講し、会場から多くの質問が寄せられました。アンケートでは「中国の介護に対する認識を根本から変えなければいけないと思った」など、大変好評を得る結果となりました。

本研究会では今年度末に報告書をまとめ、研究成果を県民に還元してまいります。



会場の様子

「はばたき」キャリア支援センターだより

2018年9月に経団連が2021年春入社以降の就活に対し、現行の「就活ルール」の撤廃を発表しました。政府側は2021年春入社に関しては現行の3月の広報開始（採用情報解禁）、6月の採用選考開始のルールを維持する方針を打ち出しています。

今後、就職活動の早期化が懸念される現1年生、2年生、また4月に入学する新1年生の中には不安を抱く人も多いのではないのでしょうか。就職活動を開始する際、多くの方が最初にぶつかる壁は、「業界」と「職種」の絞り込みではないかと思います。それには、自分

の中の興味（やりたいこと）や、これまでに培った経験から得た知識、能力（できること）がカギになってきます。これが、自分を知ること＝「自己分析」なのです。

納得のいく就職先が見つかるように、また、就職活動で自分にしか書けない「志望動機」や「自己PR」を作成する上でも、自己分析はとても重要です。

学業はもとより、クラブ・サークル活動、アルバイト等、そして友人など人との関わりなどに対し、5W1Hで振り返ってみましょう。自分自身の「やりたいこと」や「できること」が見えてくるはずですよ。

大学生活でしか経験できないことも多くあります。これからの様々な新しい経験を通じて、知識、能力、興味の幅を広げて将来の可能性を拡げて欲しいと思います。

キャリア支援センターでは、就活に関する情報の提供や、相談も出来ます。いつでも気軽に立ち寄って下さいね。





薬学部 薬物動態学分野

2019年4月より薬劑学分野に名称変更

尾上 誠良教授

先生の主要研究である、投薬による副作用の回避を目的とした研究についてお聞かせください。

クスリを逆から読むと「リスク」(risk)となりますが、実際に薬効と副作用は表裏一体で、どのようなクスリでも副作用は発生してしまいます。そうしますと、「どうやってクスリを適切に使うか」という話になってくるわけです。そこで我々は投薬した後のクスリが体内でどのように動くのか詳細に把握し、このクスリの体内での動きを戦略的に制御することによって副作用の回避を試みています。たとえば、ある呼吸器疾患のクスリ(Pirfenidone)を例にしますと、このクスリは口から飲むタイプのもので、服用すると非常に良い治療効果を示すのですが、約半数の患者さんに対して消化器症状(食欲不振、胃の不快感、吐き気)や光線過敏症などの全身性の副作用が出てきます。このクスリが肺のみで作用を示してくれるようになれば副作用は無くなるはずですので、我々は口から飲むクスリではなく、新たに吸入剤とすることで呼吸器系に直接クスリを届けることを試みました。そうす

ることで、呼吸器系以外でのクスリの作用をおさえて、副作用の少ないクスリになると期待しています。これ以外にも既に製薬企業と共同で副作用を回避可能な投与形態を複数開発・特許出願しており、今後もリスクの少ない治療法提案を目指して研究活動を推進していきたいと思います。また、副作用の回避とは少し異なりますが、機能性食品素材の効果を高めるために吸収性を高めた投与設計も併せて行っています。いろんな機能性食品素材を対象にしていますが、コエンザイム Q10 については吸収性を約 10 倍向上させることに成功し、2016 年から米国で製品として販売して頂いています。

現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

私はもともと製薬メーカーに勤務しており、医薬品開発に従事していました。そこでは多くのクスリの種が開発されて、そのほとんどは日の目を見ずにドロップしていきました。その開発失敗の理由は様々ですが、薬理効果そのものは

既に世に出ているクスリよりも強力であるにもかかわらず、副作用の問題によって製品化できないケースも多々ありました。良い治療効果を示すクスリが良いクスリであることは言うまでもありませんが、患者さんにとってクスリを安全に使用できることも極めて重要な課題であることを痛感致しました。会社におりました際には部署毎にある程度の守備範囲といいますが、担当する役割というものも明確になっており、あまりそこから外れた仕事というのはなかなか出来ませんでした。大学はとても自由な風土がありますので、あえて守備範囲を設けずに「安全なクスリをつくる」という命題に対して多方面からアイデアを出し合いながら取り組んでいます。

研究室の学生たちの様子を教えてください。

自分自身が学生の時とは違って、しっかりとキャリア形成を見据えて日々の活動を行っている印象があります。社会に出た際に活躍するために英語学習に熱心に取り組む者、様々な資

格を取得する者、ストイックに研究活動に邁進する者、皆それぞれですね。自分の学生時代には決して出来ていなかっただろうなというようなことを自己啓発的に行っている学生達を見ると、いつも感心するとともに自分自身も頑張ろうと勇気付けられます。さらに高

みをめざしてもらうために時には厳しいことも申しますが、基本的には彼らが将来活躍できることをずっと祈念している応援団長のつもりでいます。ラボの他のスタッフも元々は私の教え子ですが、彼らもきっと同じ気持ちでしょうね。



学生とミーティングを行う尾上教授

STUDENT VOICE

薬学部
薬科学科4年
中澤 明日香さん



研究室を志望した動機、配属決定した経緯等についてお聞かせください。

3年次の研究室配属までに受けてきた授業の中で最も興味を持ったのが体内における薬物の動き、薬物の生体内運命を学ぶ薬物動態学でした。さらに様々な研究室を見学し、話を聞く中で、剤形の工夫により薬物の体内動態を制御できることに興味を持ち、関心を抱きました。また、当研究室では医薬品だけでなく機能性食品成分に関する研究を行っていることにも魅力を感じました。

ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありましたらお答えください。

当研究室では本学の特徴でもある「薬食同源」や「薬食融合」を推進しており、医薬品のみならず食品成分にフォーカスした研究も行っています。自身で設計、作成した製剤の物理化学的特性の評価だけでなく動物実験により有効成分の体内での動きや作用を実際に検証できることも魅力の1つです。さらに毎週行われるセミナーでは学生各々が持つテーマについて活発な議論が行われ、一部英語によるディスカッションも行っているのは、当研究室ならではの特徴であると思います。

ご自身が行われている研究テーマについてお答えください。

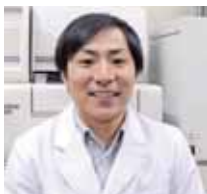
医薬品やサプリメントに含まれる有効成分は水に溶けてから小腸で吸収されなければ

作用が発現しません。これらの有効成分の中には水に溶けにくいものもあり、口から摂取してもほとんど体内に吸収されない場合があります。そこでこれら成分を水に溶けやすくする製剤を開発することで、効率的な吸収と薬効発現の改善を目指した研究を行っています。このような研究を行うことで化合物の有効活用や効率的な製品の開発に貢献したいと考えています。

将来の目標・希望進路がありましたらお答えください。

研究を通して得た体内動態を制御するための様々なアプローチに関する知識を活かし、製薬企業で薬物動態や製剤分野の仕事に働きたいと考えています。他にも食品や化粧品会社に入社されている先輩方がいらっしゃるのので、これから勉強していく中で自分の専門性を磨きながら多くの選択肢から具体的な展望を見つけていきたいと考えています。

大学院
薬食生命科学
総合学府
博士課程3年
猪山 陽輔さん



研究室を志望した動機、配属決定した経緯等についてお聞かせください。

薬には様々な効果があり、人に対して予期せぬ悪影響を及ぼすことがあります。そこで、薬が体に入った後の動きを正確に把握し、望まれている効果のみを発揮するような製剤を創りたいと思い、薬物動態学研究室を志望しました。現在は、「薬剤学でクスのリスクを回避する」をスローガンとして掲げ日々研究に励んでいます。

ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありましたらお答えください。

「薬物動態学」や「薬剤学」という分野は薬学部にはない研究分野です。実際には見えない体の中での薬の動きを可視化し、さらに体内での薬の動きを制御すること

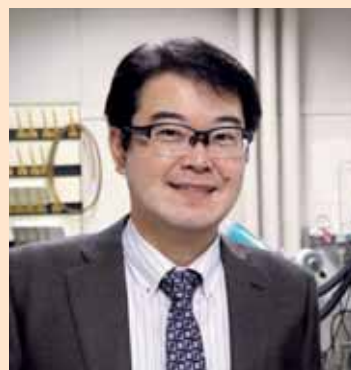
によって望まない効果である副作用の回避を試みています。また、研究で困難に直面した時に先生方や周りの仲間に相談し、一緒に解決するという温かさのある研究室です。

ご自身が行われている研究テーマについてお答えください。

私は「薬が副作用を引き起こす可能性」を予測する方法の開発をしています。副作用の中でも薬剤性光線過敏症と呼ばれる薬が誘発する重度の日焼けのような炎症反応に着目しています。これまでの研究が実り、国際的な医薬品の光安全性評価に関するガイドラインである ICH S10 に記載され、安全性の高い医薬品の開発に貢献しています。

将来の目標・希望進路がありましたらお答えください。

私は将来、製薬会社の研究者として、「副作用のない医薬品」を創りたいと考えています。単に強い効果のある薬ではなく、それに加えて安全な薬が患者さんの求める薬だと考えており、日頃から副作用を予測・回避する術を学んでいます。



おのうえ さとみ
尾上 誠良 教授 薬学博士

1973年生まれ兵庫県出身。岡山大学薬学部を卒業後、同大学院修了。伊藤ハム(株)中央研究所 医薬品グループ、ファイザー(株)中央研究所 薬剤科学研究部を経て、2007年から本学に奉職し2014年薬学部教授に就任。

薬物動態学分野
教員3名 学生25名

<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/yakuzai/>

活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 谷澤 優希さん

卒業 国際関係学部国際関係学科
学部 (2016年3月卒業)

勤務先 清水埠頭株式会社

Q1. 現在の仕事について教えてください。

弊社は第3セクターの港湾施設として、穀物等の公共性の高い貨物の輸入手続き、荷役業務を行っております。そのなかで、私はセメントの海上輸送に携わっており、在庫、設備の保守管理、船のバース操りを主な業務としています。

バースとは、船の駐車場のようなもので、他部署と調整しながら、限られたスペースに接岸できるように手配します。船が予定通り入港できた際には、パズルのピースがはまったような達

成感を感じます。

Q2. 大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことは何かありますか？

学生時代には、佐藤ゼミでお世話になりました。学業はもちろんのこと、メールのマナーや社会に出た際の基本についても教えていただきました。特に印象深いのは、イスラエルとパレスチナの学生と交流会を開催した際のことです。ゼミ生でおもてなし計画を立て、互いに意見を出し、報告し合いながら交流会を進行させた経験を通して、社会人として、必須である報連相の習慣を身につけることができました。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは何ですか？

県大には自由な空気のなか、学が意志さえあれば何にでも挑戦できる環境が整っています。さらに、社会問題に対して関心を持つ学生も多く、授業やサークルを通して、互いに刺激あいながら学生生活を送ることができました。

また、日ごろから、留学生との関わりを持てる

ことも魅力の一つです。様々なバックグラウンドを持った方々と交流することで、多様な価値観を吸収することができました。

Q4. 今後の目標について教えてください。

昨年、貿易に関する国家資格である通関士の資格を取得しました。通関士とは、税関への輸出入申告や不服申し立てといった、通関業務を代行することができる資格であり、今後、この資格を生かして、貿易実務のプロフェッショナルとして活躍できるようになりたいです。特に、来年度以降、TPPの発効等、貿易環境が激変していくことが予想されるので、常に新しい情報をインプットするように意識していきたいです。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

社会人になると、想像していた以上に自由に使える時間が限られてしまい、学生時代にもっとこうしておけばよかったと後悔することもあります。学生のうちから、好奇心をもって様々なことに挑戦する習慣を身に付けることで、社会人になってもチャンスを見失うことなく成長し続けることができると思います。



お名前 吉田 直人さん

卒業 大学院国際関係学専攻
大学院 (2017年3月卒業)

勤務先 静岡新聞社静岡放送
編集局 蒲原支局

Q1. 現在の仕事について教えてください。

静岡市清水区の蒲原支局に勤務しています。主に蒲原・由比地区を担当し、街の日々のイベントや清水区内の事件事故などを担当しています。現在(執筆時12月)は、不漁が続く駿河湾特産のサクラエビの取材を担当していて、自分が書いた記事が一面や社会面に大きく掲載されるなど、大きなやりがいと責任感を感じています。読者の方から直接、応援のお言葉や記事の

感想、時には批判を頂くこともあり、取材の励みになっています。

Q2. 大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことは何かありますか？

学部時のゼミの先生に「ゼミでの研究を通して、国際政治のことがさらにわからなくなってほしい」と言われたことがあります。そして、「これだけやったのにわからないことだらけだ」ということが、修士論文を書き上げた時の真っ先の感想でした。容易に答えが出ない問題について提起し、議論を起こし、社会に何かを訴えかけるという点では現在の仕事とも通じます。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは何ですか？

学生の自由度がとて高い学部で、自分が興味を持ったテーマに専念できました。国際関係学部の先生方はバラエティー豊かで、他学科・他学部の授業も履修できて学際的に学べることは魅力的でした。キャン

パスやその周辺も穏やかで、自分のペースで学べる雰囲気が好きでした。学部やサークルで出会う人々もいい人ばかりで、大学で出会った友人は貴重な財産です。

Q4. 今後の目標について教えてください。

この先、自分のやりたいことや望む人生像は変わっていくかもしれません。どのような選択をしても後悔しないように、まずは今やるべきこと、やりたいことに力を注ぎたいと思います。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

学生時代の4年間は初めての経験、楽しい経験がたくさんあります。その分、時間が経つのがとても速く感じました。明確にやりたいことがある人は計画的に時間を使うべきだし、やりたいことがない人は楽しいと思えることを大学生活で探してみてください。なにもしないで4年間をなんとなく過ごせば、卒業してから必ず後悔します。自分の将来を考える上でも、多くの人と関わり、いろいろなことに挑戦してほしいです。



産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

学生による地域の文化的資源の活用

地域の誇る文化的資源を活用した活動をする2つの学生団体

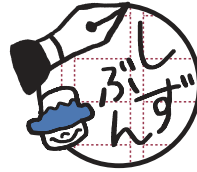
羽衣つたえ隊

国際関係学部の学生を中心とした有志団体で、能「羽衣」の魅力を国内外に伝えるべく活動している。「羽衣」絵本の読み聞かせの他、「羽衣」カードゲームの制作、地元の企業とコラボした天女の衣装の製作など、学生発の企画も数多く行う。



焼津&八雲 YY プロジェクト

文学を地域資源ととらえ、地域の新しい魅力づくりに取り組んでいる。学生の発案・デザインによる手ぬぐいや、焼津市役所と共同でやいちゃんLINEスタンプを商品化した他、県内の文学館をめくり、その魅力を紹介する「しずぶんツアー」を企画。



学生考案の「しずぶんツアー」ロゴ



小泉八雲のスケッチによる妖怪てぬぐい

音楽劇「羽衣」 全学共通科目「ムセイオン静岡 世界の文化遺産A」特別公開授業

11月7日、本学大講堂にて、公開授業として音楽劇「羽衣」～本学による地域の文化的資源の活用事例報告～を行いました。

羽衣つたえ隊、焼津&八雲YYプロジェクトの学生による、活動内容や今後の抱負などについての報告の後、SPAC所属俳優をはじめ、プロのアーティストたちの手による音楽劇を公演しました。この音楽劇は、国際関係学部の鈴木さやか講師が能「羽衣」をもとに企画・制作した絵本『羽衣』を原案としており、昨年1月の初演が好評を博したことから今回再演の運びとなりました。当日は、学生、教職員や一般の方々約250名が参加し、「幻想的な世界に引き込まれた」と好評でした。

(共催：静岡県公立高等学校国語研究会)

学生による発表



会場ロビーでは羽衣絵本や八雲妖怪手ぬぐいの販売も



布施安寿香さん(SPAC所属俳優)が演じる天女



ウェルビーイング産業研究開発 PF セミナーを開催しました

本学は、産業界の方々とウェルビーイング産業研究開発プラットフォームを構成し、農林水産省の「知」の集積と活用の中核となる産学官連携協議会のメンバーとなり、産学連携による社会への貢献や農林水産省の研究公募に積極的に応募するなどの取組を行っています。

11月17日、静岡県コンベンションアーツセンターにて本学、茶学総合研究センター長の中村順行特任教授による「お茶の健康効果と、これからのグローバル展開について」のセミナーを開催しました。



はばたき寄金からのお知らせ

第16回学生スピーチコンテスト、「第22回学生文芸コンクール」の開催

創祭2日目の10月28日に、はばたき寄金主催の「第16回学生スピーチコンテスト」の審査と「第22回学生文芸コンクール」の表彰式を行いました。

スピーチコンテストには3人のエントリーがあり、当日発表が行われました。

学生文芸コンクールには、詩6件、俳句3件(15句)、イラスト3点、写真21点、エッセイ・小説5件の応募がありました。

それぞれ審査の結果、次のとおりとなりました。



受賞者全員で



スピーチコンテストの審査

第16回学生スピーチコンテスト受賞結果

部 門	受 賞	名 前	所 属	作 品 名
学生スピーチコンテスト	最優秀賞	李 重 楼	国際関係学部	Be proud of where you come from
	優 秀 賞	ミタ サフィットリ	国際関係学部	ふるさとを忘れない
	佳 作	山本 奈央	国際関係学部	ふるすとは現住所

第22回学生文芸コンクール受賞結果

部 門	受 賞	名 前	所 属	作 品 名
詩	最優秀賞	山本 奈央	国際関係学部	大学までの上り坂
	優 秀 賞	小池 見桜	看護学部	沈殿
俳句	優 秀 賞	山本 奈央	国際関係学部	ケヤキ並木
	佳 作	南 哲平	薬食生命科学総合学府	収穫
イラスト	佳 作	内山 香穂	国際関係学部	はばたく県大
	努力賞	有村 歌織	国際関係学部	晴れの日
	努力賞	横葉 美菜	国際関係学部	ラ・ラ・ラブ
写真	優 秀 賞	大平 裕也	薬学部	紅玉
	佳 作	上野 宏弥	薬食生命科学総合学府	駿府の夜桜
	佳 作	八木 美月	看護学部	まなざし
	努力賞	南 哲平	薬食生命科学総合学府	朱紅の乱舞
	努力賞	古川 哲也	薬学部	立冬のせせらぎ
	努力賞	渡 遼 慧	薬学部	平成最後の夏合宿
	努力賞	宮国 大介	薬学部	さとうきび畑で働く父の姿
	努力賞	松澤 明希	薬学部	碧色を渡る
	努力賞	佐藤 みなみ	国際関係学部	オットセイの親子
エッセイ・小説	優 秀 賞	石原 恭輔	食品栄養科学部	家出宿屋のお召しもの
	優 秀 賞	田部 美紗子	薬学部	さよならに規定される私

皆様からの寄金へのご協力、御礼申し上げます。(敬称略、寄附の順)

(平成30年1月～平成30年12月分) 池田哲夫、小針進、県立大学アジア立田記念会、創星会、大学後援会、寺尾康

図書館 だより

岡村昭彦文庫10周年・ 岡村昭彦資料室開設記念講演会

11月11日に附属図書館において、「岡村昭彦文庫」開設10周年と「岡村昭彦資料室」のオープンを記念して講演会を開催しました。当日は全国から50名ほどの参加者が出席しました。岡村昭彦が追求した多岐にわたるテーマについて、3名の岡村研究者を講師に招いて、それぞれの「岡村研究」の最新の成果

について発表していただきました。附属図書館の一角にある岡村文庫には、岡村昭彦が個人的に収集した1万数千冊の書籍類が収蔵されています。これらの蔵書を眺めると、彼の学際的な知的関心の広がりを実感することができます。そしてこの度、新たに開設された岡村昭彦資料室には、取材や研究のた

めに収集した貴重な資料がまとめられています。彼の研究の全体像を知るうえで、参考になる資料がジャンルごとに分類整備されています。ここ附属図書館に世界に誇る新たな資料室が誕生したことをお知らせします。

(附属図書館長、小幡壮)

私の一冊の本



著者:ヴィクトール・E・フランクル
池田香代子(訳)
出版社:みすず書房
出版年:2002年11月
請求記号:946//F 44
ISBN:4-622-03970-2

本著は、ナチス占領下の強制収容所という過酷な状況下で人の心はどのように動くのか、そのプロセスについて冷静な目と筆力でまとめられた名著だと思います。精神科医であり心理学者である著者フランクルの、自分や他者の心を客観的に見る力に圧倒されます。私が大学時代に受講した臨床心理学の授業で紹介された本ですが、心理学への興味の有無に関わらず、これからの時代を生きる学生のみならず是非読んでいただきたい一冊

紹介者 短期大学部こども学科教授・附属図書館長 小林 佐知子
紹介図書 『夜と霧』新版

です。

人は、個人差はあれ人生の中で何度か苦しみを体験します。戦争や天災といった多くの犠牲を伴うものから、失業や病気といった個人的なものまで様々です。私がこの本から学んだことは、“苦しみの中でどのような行動を選ぶのが人生を決定づけていく”ということです。強制収容所という、いつ死んでもおかしくないような極限の中でも、飢えた仲間自分のパンを分ける人や仲間を助けるために罰を受ける人がいる。自分の未来に希望があることを信じ、期待を持ち続けた人もいます。このように人間の尊厳や希望を失わない人は結果的に生き延びる可能性を高める一方、多くの方は自分の運命に失望し、感情を麻痺させ、流されるままに日々を過ごし、やがて死んでいったそうです。感情を忘れ、考えることを放棄し、自我をなくした人々の口から出る言葉は「生きていてもしょうがない」だったそうです。思い詰めた人は身体の免疫力も低下するのか、死を

早めていきました。苦しい時にどう行動するかは、まさに運命の分かれ道といえそうです。

また、著者は生きる意味について、「生きるとはつまり、生きることの問いに正しく答える義務、生きることが各人に課す課題を果たす義務、時々刻々の要請を満たす義務を引き受けることにほかならない。」と述べています。それが例え苦しみという義務であったとしても、です。例えば重い病を患っても、それを受け入れて人生の意味を見出そうとすることが大切なのだといえます。

著者の言うように、苦しみと向き合い、もがきながらも覚悟を決めてよりよい決断をしていくことが大切だとするならば、この先がどんなに大変な人生であったとしても、それを受け入れ、とにかく生き抜いていくことが大切なことなのかもしれません。私自身はこれまで人生からの問いにきちんと答えてきたのか自信はありませんが、この文章を書く機会をいただき、思いを新たにすることができました。

奨学金授与式が行われました

本学では、有意義な学生生活を支援していくために、地元企業等の奨学団体の協力による各種奨学金制度を設けています。
 今年度は、地域の地元企業等15団体から計49名の学生が奨学金をいただきました。
 平成30年3月から9月までの間に奨学金授与式が執り行われました。

「しずぎんアジア留学生奨学金」授与式 3月16日

国際関係学部 2年 SAHIDAN AINUN SOFIEYA BINTI
 国際関係学部 2年 ADRIANSYAH KEVIN MANDALA
 国際関係学部 3年 TRAN THI THOM
 国際関係学部 3年 ALIF IQBAL DHIAULHAQ
 経営情報学部 4年 王 琦
 国際関係学部 4年 LIM MAO SHAN
 国際関係学研究科 修士2年 朴 松淑
 国際関係学研究科 修士2年 HUYNH SO VAN



「ロッキーマン奨学基金」授与式 7月27日

薬学部 2年 手塚 麻友
 経営情報学部 2年 山本 さくら
 薬学部 4年 高井 彩花



「TOKAI グレープ奨学金」授与式 6月18日

国際関係学部 1年 李 重楼
 経営情報学部 2年 村松 彩月
 薬学部 4年 佐々木 貴章
 薬食生命科学総合学府 修士1年 佟 佳星
 国際関係学研究科 修士2年 翁 希望



「天野回漕店奨学金」授与式 7月30日

国際関係学部 2年 MUHAMAD ISMAIL
 国際関係学部 2年 潘 青



「万城食品奨学金」授与式 7月2日

国際関係学部 1年 堤 和佳菜



「村上奨学財団」授与式 9月14日

薬学部 2年 森内 みなみ
 国際関係学部 2年 杉山 紗菜
 国際関係学部 2年 MUHAMMAD ATRAS AUZAN
 国際関係学部 2年 本田 萌花
 看護学部 2年 千葉 稜子



「静岡ガス奨学生」認定証授与式 7月5日

食品栄養科学部 4年 鈴木 杏奈
 薬食生命科学総合学府 博士1年 佐伯 棕子



「エンケイ財団奨学金」授与式 9月21日

国際関係学部 1年 AKHMAD SYARIFUDDIN
 国際関係学部 1年 森澤 有由里
 経営情報学部 1年 TRAN THI BICH KIEU
 国際関係学部 3年 野崎 文香
 経営情報学部 3年 尾下 夏海
 薬学部 5年 芹澤 環
 薬食生命科学総合学府 修士1年 芳野 文香
 薬食生命科学総合学府 修士1年 鈴木 美佑
 薬食生命科学総合学府 修士1年 石山 詩織
 薬食生命科学総合学府 修士2年 NGUYEN THI PHUONG



「スイチ奨学金」授与式 7月6日

国際関係学部 2年 除 孝銀
 国際関係学部 3年 倉田 笑利



「自然の恵み財団奨学金」授与式 9月28日

食品栄養科学部 1年 村井 尚子



「静岡信用金庫奨学生」奨学金授与式 7月9日

薬学部 4年 菊池 理保子
 国際関係学部 4年 渥美 明日香



Sun&Sun 総合保険奨学金

薬学部 1年 山口 侑季乃

ピョンス国際育英財団奨学金

国際関係学部 3年 陳 晞晶

「東海澱粉国際交流奨学基金」授与式 7月25日

国際関係学研究科 修士1年 胡 金丹



スルガ奨学財団

国際関係学部 1年 小川 玲奈
 看護学部 1年 帯金 愛麗
 薬学部 3年 佐野 歩
 国際関係学部 3年 陳 晞晶
 経営情報学部 4年 阮 勤

地元企業等による本学学生への奨学金

名称	給付金額	支給期間	応募資格	30年度採用人数
株式会社静岡銀行	月額 10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する留学生	留学生 8人
(株) TOKAI ホールディングス	月額 5万円	1年間	全学生(研究生、科目等履修生含む)	日本人3人、留学生2人
(株)万城食品	月額 5万円	1年間	学部1年又は2年生の日本国籍もしくは永住権を有する学生	1人
静岡ガス(株)	月額 5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
スイチ奨学金	月額 5万円	1年間	学部生・大学院生の2年生以上で授業料減免を受けている者	2人
静岡信用金庫	月額 5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
公益信託東海澱粉国際交流奨学金	月額 3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	1人
静岡県労働者福祉協議会	年額 20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	3人
(株)天野回漕店	月額 5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2～3年生	2人
村上奨学財団	月額 2万円	1年間	学部2年生の者	5人
エンケイ財団奨学金	月額 2万円	1年間	学部生・大学院生・ASEAN諸国からの留学生	10人
(公)自然の恵み財団	月額 3万円	2年間	食品栄養科学部1年生の学生	1人
(公)Sun&Sun 総合保険事務所	月額 3万円	1年間	学部1年生の日本人学生	1人
(公)ピョンス国際育英財団	月額 1万円	1～4年間	留学生のうち学部1～3年生	1人
スルガ奨学財団	月額4万円(日本人)月額5万円(留学生)	1～4年間	学部生	日本人3人、留学生2人

教員・学生の受賞 各受賞の詳細については本学公式サイトでのニュース&トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所属	受賞名	
教員	田中 瑞己 助教	食品栄養科学部	糸状菌遺伝子研究会 奨励賞	
	伊藤 創平 准教授	食品栄養環境科学研究院	静岡テックブラングランプリ 最優秀賞	
	中野 祥吾 助教	食品栄養科学部	静岡テックブラングランプリ ヤマハ発動機賞	
	小林 裕和 教授	食品栄養環境科学研究院	静岡テックブラングランプリ リバネス賞	
	浅井 知浩 教授	薬学部	第 45 回日本毒理学学会学術大会 優秀研究発表賞	
	鈴木 美希 助教	薬学部	第 2 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ KJYSP Chair 's Selection Award	
	木村 晋一郎 助教	食品栄養科学部	環境科学会 奨励賞	
	三宅 祐一 助教	食品栄養科学部	製剤機械技術学会第 28 回大会 第 1 回仲井賞若手研究者奨励賞	
	岩尾 康範 准教授	薬学部	第 8 回 (2018 年度) 地域研究コンソーシアム賞	
	湖中 真哉 教授	国際関係学部	日本防衛学会猪木正道賞 (正賞)	
	梅本 哲也 教授	国際関係学部	国際開発学会 賞選考委員会特別賞	
	湖中 真哉 教授	国際関係学部	第 13 回 櫻山純三賞	
	柯 隆 特任教授	グローバル地域センター	日本国際保健医療学会学術大会 ベストポスター賞	
	前野 真由美 講師	看護学部	室内環境学会学術大会 (2017 年度開催) 大会長奨励賞	
	徳村 雅弘 助教	食品栄養科学部		
	学生	伊藤 優太・村上 慧・櫻井 ひとみ・伊藤 謙汰・安部 友涼	薬学部	第 64 回日本薬学会東海支部 総会・大会 学生優秀発表賞
		狩野 孝裕・三上 靖代	薬食生命科学総合学府	第 29 回日本微量元素学会学術集会 優秀ポスター賞
		竹内 梓紗	薬学部	第 29 回日本微量元素学会学術集会 優秀ポスター賞
		丹羽 正純・三村 健太・川崎 真由	薬食生命科学総合学府	第 1 回 静岡テックブラングランプリ 最優秀賞
横山 喬太		薬学部	第 33 回老化促進モデルマウス (SAM) 学会学術大会 若手研究奨励賞	
佐伯 椋子		薬食生命科学総合学府	日本核酸医薬学会第 4 回年会 優秀発表者賞 (川原賞)	
増田 美里		薬食生命科学総合学府	Water and Environment Technology Conference 2018 (WET2018) WET Excellent Presentation Award	
西尾 隆佑		薬食生命科学総合学府	第 45 回日本毒理学学会学術大会 学生ポスター発表賞	
猪山 陽輔		薬食生命科学総合学府	第 2 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ Outstanding Poster Presentation Award	
山本 深月		薬食生命科学総合学府	日本食品科学工学会第 65 回大会 優秀賞	
山田 朋宏		薬食生命科学総合学府	第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 優秀発表賞	
山田 朋宏・佟 佳星		薬食生命科学総合学府	第 16 回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2018) 若手研究者奨励賞	
吉川 祐人		薬食生命科学総合学府	第 23 回日本フードファクター学会・第 12 回日本ポリフェノール学会・第 15 回日本カテキン学会・合同学術集会 Young Investigator Award	
榊原 佳子		薬食生命科学総合学府	糖鎖科学中部拠点 第 15 回『若手の力』フォーラム 糖鎖科学中部拠点 2018 年度奨励賞	
鈴木 大貴		薬食生命科学総合学府	フォーラム 2018: 衛生薬学・環境・キシコロジー 実行委員長賞	
増田 美里		薬食生命科学総合学府	環境科学会 2018 年会 優秀発表賞 (富士電機賞)	
宮崎 淳平		食品栄養科学部		
堤 正人		薬学部	第 25 回日本免疫毒性学会 若手優秀発表賞	
鈴木 綾花・水野 真由		経営情報学部	大学生観光まちづくりコンテスト 2018 茨城ステージ 茨城県奨励賞	
佐々木 允人		薬食生命科学総合学府	日本農芸化学会中部支部第 183 回例会 中部支部学術奨励賞	
室田 健来		薬食生命科学総合学府	日本農芸化学会中部支部第 183 回例会 中部支部企業奨励賞	
櫻井 理咲子		薬学部	製剤機械技術学会第 28 回大会 優秀発表者賞	
近江 弘規・鈴木 彩香・赤岡 史人・藤岡 愛里・福井 芹菜・西尾 隆佑・船本 雅文・清水 聡史・清水 果奈・片山 歩実		薬食生命科学総合学府	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 ベストプレゼン賞	
高西 潤・大嶽 暉・横山 喬太・杉本 真太郎・田川 大期・柳原 功典・伊藤 流星・本多 大樹・望月 成美・松田 有加里・長知 優花		薬学部		
西尾 隆佑		薬食生命科学総合学府	メタルバイオサイエンス 2018 学生ポスター賞	
村松 孝亮		薬食生命科学総合学府	室内環境学会学術大会 優秀ポスター賞	
新堂 真生		食品栄養科学部		
長谷部 美紀・青木 瞳		看護学研究科	第 8 回日本在宅看護学会学術集会 優秀ポスター賞	

H30年7月から12月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。

静岡県立大学おおぞら基金に寄附してくださった皆様 (平成30年1月から12月)

静岡県大文化通信、(株)県大販売協力会、枝野修、中田修、佐海慎三、平野竜史、野村貴晴、渡部良一郎、上原功也、斉藤守、石塚康義、山口和広、短期大学部後援会、鈴木健一、佐藤弘和、藤原英次、薬学部後援会、食品栄養科学部後援会、国際関係学部後援会、経営情報学部後援会、看護学部後援会、飯島佑介、Christopher Williams、木苗直秀、大石ちよ、真野毅、伊藤泰弘、南雲俊之、吉田和則、合田敏尚、佐藤展久、眞鍋史乃、高田満里江、山田朗、匿名希望 14名 (敬称略)

教員活動評価における業績優秀者への学長表彰

静岡県立大学では、教員の教育研究活動等の一層の向上を図ることを目的として、教員活動評価を実施しています。12月17日に、2017年度(平成29年度)の教員活動評価における業績優秀者 14人に対して、学長表彰を行いました。

学 部 等	職 位	氏 名
薬学部 薬学研究院	教授	森本 達也
	准教授	高橋 忠伸
	講師	南 彰
食品栄養科学部 食品栄養環境科学研究院	助教	紅林 佑希
	教授	増田 修一
国際関係学部 国際関係学研究科	助教	三宅 祐一
	教授	澤田 敬人
	准教授	ジョウカチイハシ 須田 孝司
経営情報学部 経営情報イノベーション研究科	講師	大久保 誠也
	教授	渡邊 順子
看護学部 看護学研究科	准教授	藤田 景子
	准教授	鈴木 俊文
短期大学部	講師	森野 智子

職位は受賞時のものです。

教員人事

採用

特任教員	平成30年9月1日付
葉倉 大輔	グローバル地域センター 特任助教

	平成30年10月1日付
マクルヒータズ	言語コミュニケーション研究センター 特任講師
小田 透	言語コミュニケーション研究センター 特任講師

専任教員	平成30年10月1日付
保坂 利男	食品栄養科学部栄養生命科学科 教授
六井 淳	経営情報学部 准教授

	平成31年1月1日付
米澤 正	薬学部薬学科 講師
松裏 豊	看護学部看護学科 助教

昇任

	平成30年10月1日付
原 幸大	薬学部薬科学科 講師
小出 裕之	薬学部薬学科 講師
高畑 幸	国際関係学部国際関係学科 教授
竹部 歩美	国際関係学部国際言語文化学科 准教授
国保 祥子	経営情報学部 准教授
上原 克仁	経営情報学部 准教授

	平成30年11月1日付
坂本 多穂	薬学部薬科学科 准教授

	平成31年1月1日付
佐藤 秀行	薬学部薬科学科 講師

はばたき

次号139号は2019年7月発行の予定です。

138号 2019年2月15日発行
発行元 / 静岡県立大学広報委員会

静岡県立大学 教育研究推進部広報・企画室
〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田5-1
TEL / 054-264-5130 FAX / 054-264-5099
E-mail / koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
URL http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/



ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

自慢の 静岡の老舗 京都むらまつ
成人式きものレンタル
ふりそで・男性きもの

京都むらまつ

検索




<男性きものレンタル>
男性紋付袴一式
30,000~40,000円 (税別)
※取り寄せ衣裳は、4万円以上の衣裳がございます。

<ふりそでレンタル>
振袖一式 (持ち物一切なし)
※着物・帯・ショール・小物類・髪飾り付。
50,000~185,000円 (税別)

通常特典：
●着付・美容1回無料！ (対象8万円～)
●次回、衣裳レンタル5,000円割引！
●肌着・足袋プレゼント！

「着付け・美容・写真撮影、全て、店舗で行なえます。和装技術も自信があります！」

県大生3年生の皆さまへ
毎年、大好評の卒業はかまは、6月頃スタート予定です！

京都むらまつ
場所：静岡市葵区馬場町 25-2 (静岡浅間通り商店街)
電話：0120-144081 (フリーダイヤル) 054-252-5293 (代表)
営業：9時半~17時
定休日：水曜日
※3月は卒業シーズンの為、来店不可。

<県大・県短割>
男性きもの **2千円割!**
ふりそで **1万円割!**
※通常特典と、併用可能。
※他の特典とは、併用不可。

「はばたき」読者限定!

県大生応援キャンペーン!!

〈お申込時にこの冊子をご持参下さい〉

**6月末までにご入校の方に
TDLパスポートが
ペアでもらえる!**

※普通自動車で入校の方が対象です
※限定解除の方は対象外とさせていただきます



お申込みはフリーダイヤル **0120-155-168** | 携帯からでもOK
※チラシを見たとお伝えください。

公認 古庄自動車学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号
TEL.054-261-1551
FAX.054-264-0940
<http://www.flushyou.co.jp>
main@flushyou.co.jp





古庄は ★
特典がいっぱい

- 優先予約で短期取得可
- 再検定料一切不要
- 技能オーバー無制限保証
- 夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく乗ってないから運転が不安で…

卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料
※普通車のみ：2・3・8月を除く

